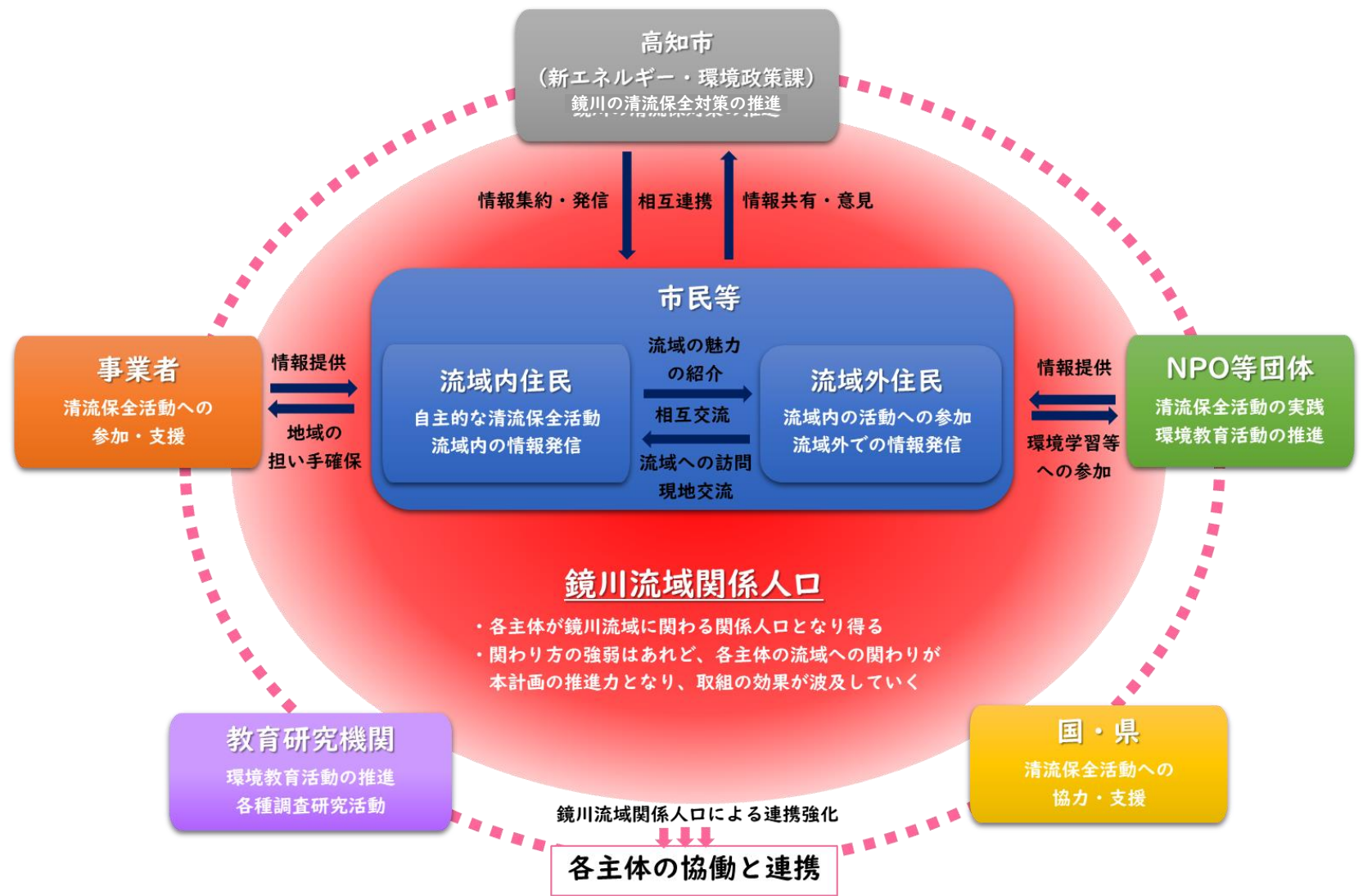
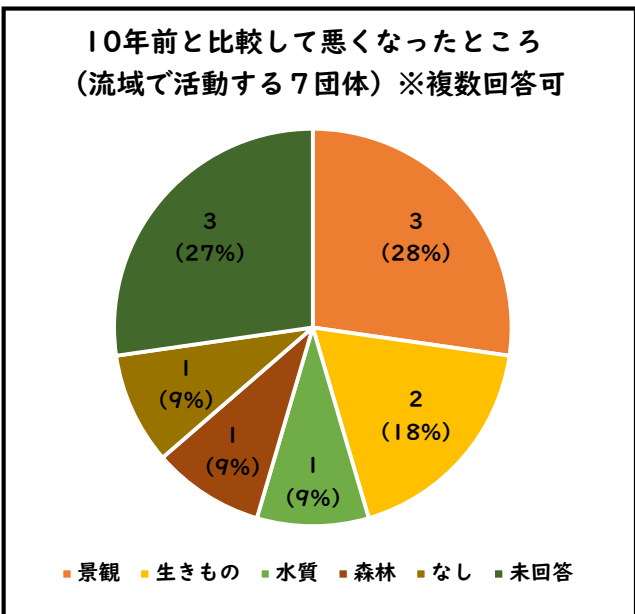
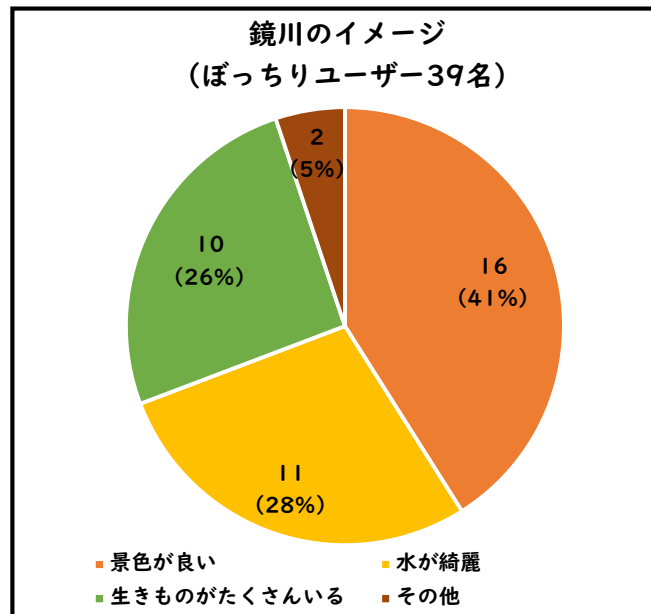
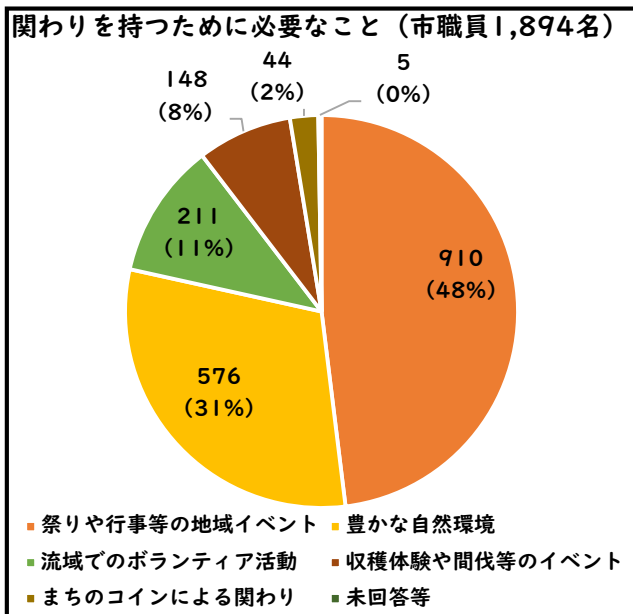
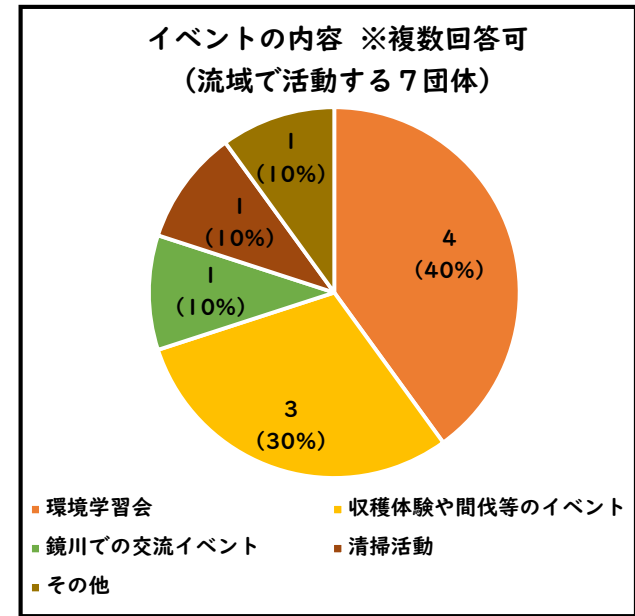
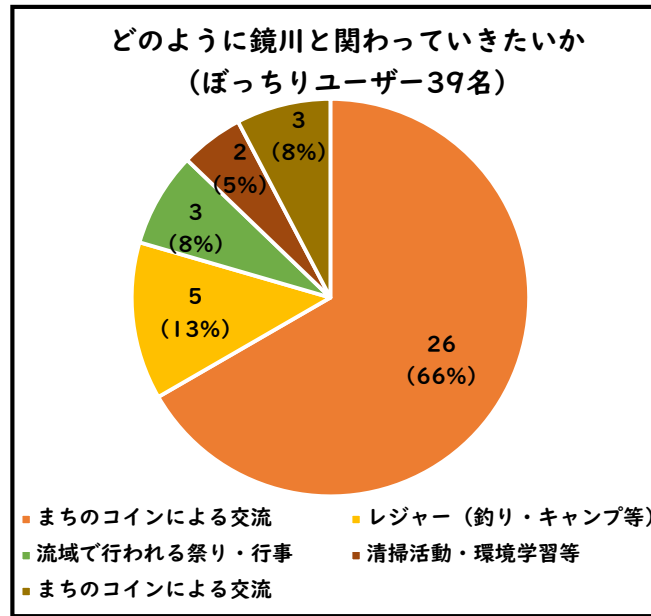
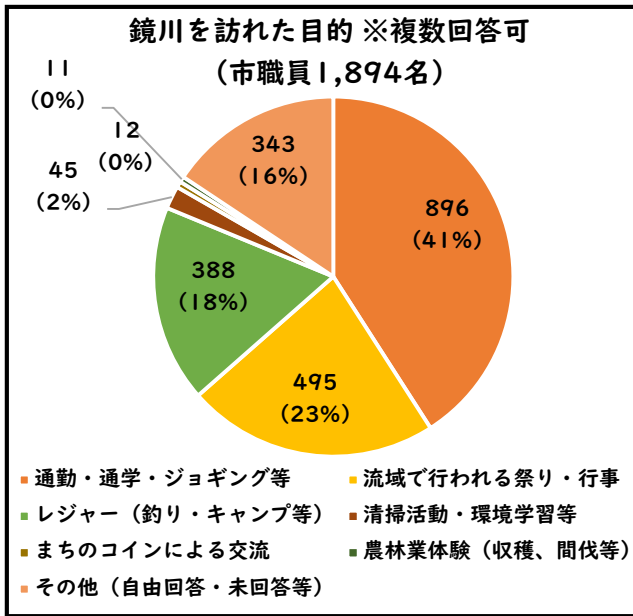


- ・鏡川流域関係人口創出事業は、少子高齢化に伴う担い手不足による鏡川流域の自然資本の荒廃などの課題を解決することを目的としている。
- ・これまで、地域のニーズ調査や審議会の意見等を踏まえ、鏡川流域の自然などの地域資源に対する多様な関わりを創出・拡大してきた。
- ・鏡川流域における相互連携・相互補完による関係構築を通じ、持続可能な清流保全の取組を推進している。
- ・鏡川流域関係人口講座で創出された取組や、受講生等の関係人口が考案した企画・活動は、2017鏡川清流保全基本計画の各施策と関連している。
- ・以上のことから、鏡川流域関係人口創出事業は、【仮称】2027鏡川清流保全基本計画において、計画全体の強力な推進力となることが期待される。



【仮称】2027鏡川清流保全基本計画のポイント（②庁内及び関係団体へのアンケート結果の整理）

- ・【仮称】2027鏡川清流保全基本計画の策定に向けて、市職員1,894名、ぼっちりユーザー39名、鏡川流域で活動する7団体にアンケートを実施したものの、
- ・主なアンケート結果は、以下のとおり。詳細については、別紙「アンケート結果」を参照。



【仮称】2027鏡川清流保全基本計画のポイント（③審議会・ヒアリング等で確認した委員意見）

分類	キーワード	意見概要
計画全体	計画の位置付け	計画自体を大きく変える必要はないと考えている。
計画全体	計画の位置付け	50年後、100年後の子どもたちにどんな川を残すのかという視点が求められる。
計画全体	計画の位置付け	今すぐできないことでも計画に記載しておくことが重要である。
計画全体	鏡川流域の優位性	森林の荒廃や過疎化による担い手不足など、日本の縮図とも言える問題が発生している。
計画全体	関連計画との関係性	SDGsの要素を追加するか検討が必要である。
計画全体	数値目標の設定	たくさんある指標の中で、重要なものを選択することも必要かもしれない。
水と水辺	県内河川の状況	県内の河川で起こっていること（濁水、ダムが埋まる等）が鏡川でも起こりうる。
水と水辺	取水堰の運用	県内の河川でもダムの影響で土砂が流れず、砂が溜まっていることが問題になっている。
水と水辺	河畔林の管理	課題として、河川の脇に生えている木が大きくなり過ぎていることが挙げられる。
水と水辺	河畔林の管理	溪畔林や河畔林が減少することで、災害につながる恐れがある。
森	森林所有者の高齢化	森林所有者の高齢化が進んでおり、適正な管理を継続できる仕組みづくりが必要である。
森	持続可能性の維持向上	樹木の大径木化が進行しており、伐採の危険性など問題が生じている。
森	針広混交林への誘導	針広混交林は理想的だが50年、100年の期間で取り組むことである。
森	森林整備への理解の促進	次期計画では、川の中のことだけではなく、もっと森について検討する必要がある。
生きもの	産卵場の整備	下流に砂利が少なく、川の環境が悪化している。
生きもの	アユの状況	昔は天神橋あたりでアユを釣っていたが、河床が下がって釣れなくなっている。
まち・ひと・しごと	子どもたちの川との関わり	流域の幼稚園、小学校等の子どもたちに授業や遠足で鏡川に行く機会を作る。
まち・ひと・しごと	鏡川流域、高知市の優位性	子どもたちに鏡川でいろいろな体験をしてもらい、将来的に高知市に帰ってきてもらう。
まち・ひと・しごと	鏡川流域関係人口創出事業	関係人口の取組について、観光や移住等の部署を環境軸で巻き込むことが必要である。